

第2回河原地域学校再編検討委員会 議事概要

1. 日 時：令和8年6月24日（水） 午後6時30分から午後8時00分まで
2. 会 場：河原町総合支所 3階 会議室
3. 参加者：委員13名（1名欠席）、学校長4名
鳥取市教育委員会3名、河原町総合支所2名
4. 内 容：

報告事項

（委員からの質疑、意見…○、事務局等による回答、説明…●）

（1）情報発信について

●事務局より説明

- ・鳥取市公式ウェブサイトにて委員会の内容や資料を掲載予定である。
- ・委員会だよりを作成し、河原地域に向けて広報予定である。

○質疑、意見等特になし

議 事：

（委員からの質疑、意見…○、事務局等による回答、説明…●）

（1）学校位置について

●事務局より説明（資料1，2）

- ・各小学校区の考える会の要望から、2通りの学校位置と、義務教育学校化するかしないかの組み合わせで4パターンを示している。今後はひとまずこの想定で議論を行い、変更や追加の意見があれば随時対応していく予定である。

○議事の進め方について、要綱に記載されている「地域の中長期的な姿を見据えた学校再編の方法」から話し合った方が議論がスムーズに進むのではないかと。学校位置の議論を先にするのではなく、どのような学校をとという議論を先にすべきだと思う。

●学校に関する要素等を議論したうえで、最後に学校位置等を決定する流れを考えている。

○義務教育学校となった場合、PTAはどうなるのか

●一つの学校となれば、PTA組織も一つと考えていただければ良い。

（2）義務教育学校について

●事務局より説明（資料3）

- ・義務教育学校の概要、メリット・デメリット等について確認
- ・江山学園の事例を紹介
- ・市内の義務教育学校への視察をできればと考えている
- ・説明後に義務教育学校について委員に対してアンケート調査を実施

○委員による追加提案

- ・河原地域の児童生徒数の推移から、統合後の学校規模を予測した。また、県内の義務教育学校の児童生徒数も調査した。既設の義務教育学校と比較すると、児童生徒数は倍程度の学校となり、再編制イコール義務教育学校化ではないのではないか。ただし、中学校の生徒数が著しく減少していくことも併せて再編のあり方を考えたい。
- ・義務教育学校になるとしても、6・3制が基本であるので、河原でもそうであってほしい。6年生の成長を大事にしたいという意見もあるため。
- ・中一ギャップについて、河原地域の規模ではそれほどではないと感じる。逆に多少のギャップはあっても良いという意見もある。
- ・義務教育学校の乗り入れ授業で、小学校教員が中学校の授業をするのはプレッシャーがあるという話も聞く。その逆もあると思う。教員の面でも心配はある。
- ・再編時期について、既存の校舎を利用してなるべく早い再編をした方が良いのではと考えている。

○委員提案の内容にはおおむね賛成。6年で一度節目が必要というのも分かるが、中学校の生徒数も減少が大きく、中学校の統合もすぐに考えなければならなくなる。いま小学校だけで統合すると、その後の義務教育学校化はすぐにはできない。学校として人数が増えるのは中学生にとっても良いと思う。

○6年生での区切りが必要というのは賛成。

○視察に行った時に登下校のことを聞いてみたい。現在、6年生が登校班のリーダーとして下の学年を連れて行っているが、学校に着くと上の学年がいる状況となる。6年生のあり方はどうなのか知りたい。6年生に話を聞くと、かなり責任感を持って通学していて、下の学年の子がそれを見て学んでいた。また、体育発表会等の行事も6年生がリーダーとなって活躍しているようで、そういったところも聞いてみたい。

(3) 通学方法について

●事務局より説明（資料4）

- ・事務局で、現在の河原第一小学校への通学をベースとした統合後の通学案を作成したので、案に対してや、その他の通学に関連することについてご意見をいただきたい。議論の内容は後日事務局でまとめ、共有させていただく。

（説明後、小学校区ごとに分かれて、通学方法について議論を行った）

その他

●次回については、1か月後を目途に日程調整させていただく。視察については調整後連絡予定。